

平成17年11月2日

本格的屋上緑化が可能となる新ルーフガーデンシステムの展開を加速

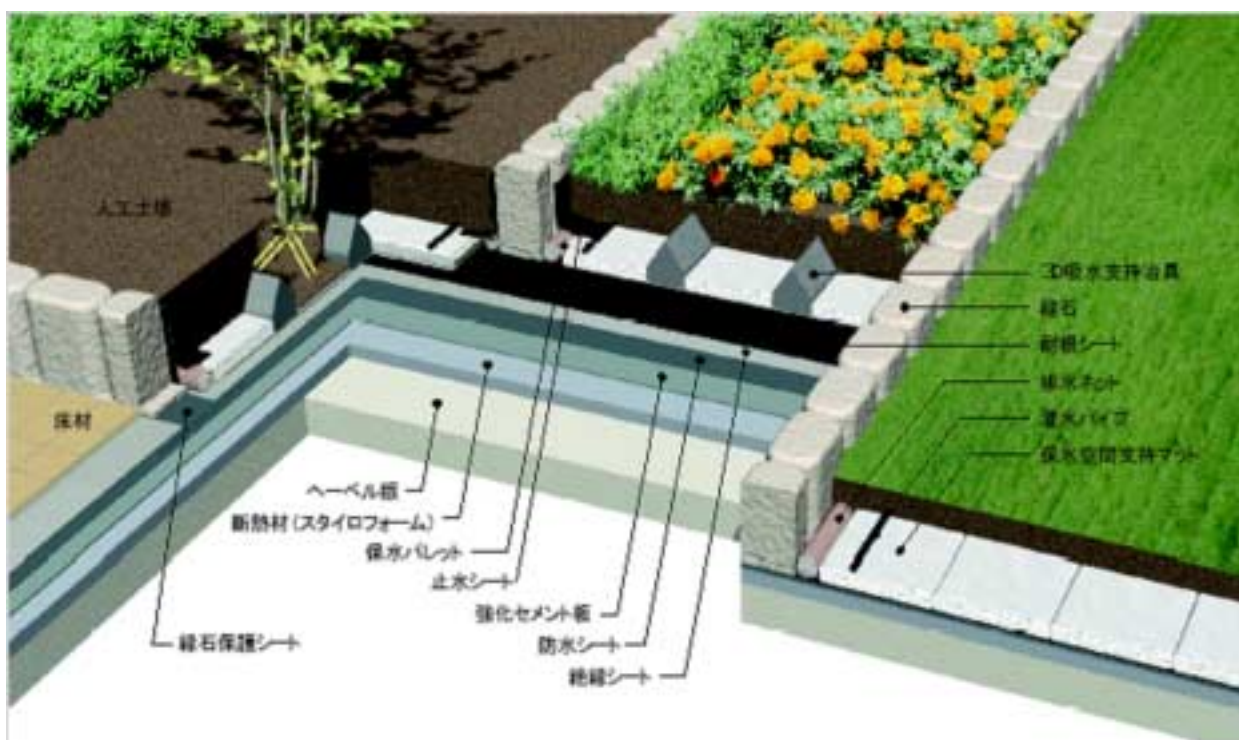
旭化成ホームズ株式会社（代表取締役社長：岡本 利明）は、本年1月に開発導入した本格的屋上緑化を可能とする「新ルーフガーデンシステム」を、本年10月までに全国の展示場約40箇所に設置を完了させ、今後も積極的にモデルハウスへの展開を進めることで、普及を加速していきます。

当社では昭和54年より、優れた躯体性能を生かして都市における屋上の利用を推進してきました。同時に屋上の緑化についても昭和57年より提案を開始し、現在に至るまでに様々な改良を加えて参りました。「ロングライフ住宅の実現」を目指し、平成15年には屋根の防水シートも30年耐用の仕様が導入されたことから、屋上の緑化についても本格的な屋上庭園を実現できる仕様の実現が望まれていました。

本年一月には、これまでの屋上緑化への取組みにより蓄積されたノウハウを集約し、本格的な庭園造りを屋上で実現できる「新ルーフガーデンシステム」を開発しました。新システムは、基盤をプール構造とすることで高い保水性を実現し、自然の雨水を利用することで水道水利用量を削減し、管理の手間を軽減しました。また、新たに開発された人工土壌は、保水状態での大幅な軽量化（湿潤状態で比重0.6）を実現するとともに、土の入れ替え無しで永続的な植物繁茂を実現します。さらに、縁石材も廃へーベルを再利用した軽量の縁石を開発し、総重量の軽量化を行うことで、土壌厚を増やすことが可能となりました。これにより、高さ2mまでの中木の植樹や種苗緑化も可能となったことで、ほぼ地上に近い感覚での庭園造りを楽しむことができるようになりました。

当社では「自然の恵みをいかす」ことで環境負荷を低減する住宅の提案に努めてきました。今回の「新ルーフガーデンシステム」は、夏期の室内温度の上昇を抑え、都市部のヒートアイランド減少の抑制にも有効であるばかりでなく、貴重な都市空間における屋上に、より自然に近い環境を実現することで、住まう人の「心の充足」にも大きく貢献するものと考えています。

【システム層構成】



【施工例】

